

令和8年度第1回船橋市博物館協議会会議録

(令和8年7月14日作成)

1 開催日時

令和8年6月12日（金曜日）午後1時から午後3時まで

2 開催場所

船橋市郷土資料館 3階学習室

3 出席者

- (1) 委員 木原委員 正法地委員 川口委員 高見澤委員 大木委員 保坂委員
- (2) 事務局 生涯学習部 鈴木部長
郷土資料館 高橋館長 石崎館長補佐
飛ノ台史跡公園博物館 河野館長 作田館長代理
文化課 白井課長補佐

4 欠席者

なし

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

- (1) 令和7年度郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の事業報告について（報告） 公開
- (2) 令和8年度郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の運営方針について（報告） 公開
- (3) 令和8年度郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の事業計画について（報告） 公開
- (4) その他 博物館協議会委員による視察について（報告）
改正博物館法の施工に伴う登録博物館の申請について（意見聴取） 公開

6 傍聴者数

なし

7 決定事項

議題1から4までの項目について事務局から報告があり、質疑応答及び意見交換を行った。

8 議事

- (1) 令和7年度の事業報告に関し郷土資料館長・飛ノ台史跡公園博物館長から資料1に沿って説明したのち、質疑応答を行った。質疑要旨は次のとおり。

《高見澤委員》

郷土資料館のその他事業の中に、虫菌害防除対策に関する記載がある。虫菌害対策に関しては、これまで燻蒸で使われていた薬剤が使用できなくなっている状況だが、どのような薬剤を使用して対策を行っているのか。

《事務局》

従来使用していた薬剤が使えなくなっていることは確認しているが、現在の使用薬剤の名称までは把握していない。従前は郷土資料館の収蔵庫に TENT を張って所蔵資料の燻蒸を行っていたが、現在は業者の倉庫に資料を持ちこみ燻蒸している。

《木原委員》

両博物館では多岐にわたる事業を行っており大変だと思うが、学芸員だけが事業を担っているのか。

《事務局》

郷土資料館には、学芸員の専門職として配置されている常勤職員が 3 名いるほか、専門職の会計年度任用職員も配置している。また、学芸員資格を有する事務職員もいる。企画展の企画・立案等、準備段階では学芸員が中心になって進めているが、作業等は会計年度任用職員も含め他の職員も協力しながら各事業に取り組んでいる状況である。

飛ノ台史跡公園博物館は、現在学芸員は 1 名のみの配置となっており、メインの企画展は当該学芸員が担当している。内容によっては、郷土資料館や文化課に配置されている学芸員などの協力を得ながら取り組むこともある。そのほか会計年度任用職員として社会科の教員経験者も在籍しており、学校連携事業や団体見学の際に経験を活かし対応している。

《木原委員》

少ない人数で運営していくためには会計年度任用職員の力を借りていく必要もあると思うが、会計年度任用職員も学芸業務のサポートを担っているのか。

《事務局》

学芸員として採用している会計年度任用職員は、学芸業務のサポートのほか講座等を担当することもある。また、窓口対応や内部事務を担う一般事務枠の会計年度任用職員も、必要に応じて学芸業務のサポートを行っている。

《正法地委員》

郷土資料館の事業報告の利用状況に、利用者数と観覧者数の表記があるが、示しているものは別になるのか。

《事務局》

同じものとなるので、今後、統一した表記にする。

《正法地委員》

生涯学習チャンネルの視聴数は、博物館が公開している動画のみの視聴数か、それともチャンネル全体のものか。また、生涯学習チャンネルでは、複数の施設が多くの動画を公開しており、博物館の動画を検索しづらい。改善できないか。

《事務局》

手元に各動画の個別視聴数がないので正確なところは改めて報告させていただくが、総視聴数は博物館で公開している動画の足し上げだと思われる。また、生涯学習チャンネルを所管する部署は別となるので、ご覧になる方がわかりやすいようなページにできないか相談する。

《大木委員》

市内小学校には地域から寄贈を受けた農具などがあるが、なかなか活用できていない状況である。市・博物館では、各校にある寄贈資料を把握しているのか。また、博物館と連携し、資料を活用していくことは可能であるか。

《事務局》

飛ノ台史跡公園博物館では、出土した土器等の貸し出しや学校資料室等に展示協力する形で連携しているほか、小学校の課内クラブ活動との連携事業を行った実績がある。

過去に、どこの学校にどのようなものがあるか確認作業を行ったこともあるが、すべての学校にある資料を把握しているわけではない。今後、文化財保存活用地域計画の策定を予定しているが、策定過程で市内の学校における資料の収蔵状況を把握することも考えたい。

《川口委員》

各展覧会や講演会の来場者・参加者の年齢層は把握しているか。

《事務局》

アンケート等を通じ参加・来場者の年齢をすべて把握しているわけではないが、比較的年齢層は高いものと捉えている。これは、博物館に限らず、文化事業全般に関する傾向だと思われる。なお、事業によっては、ファミリー層や子どものみに対象を絞って実施するものもある。また、郷土資料館で実施しているクイズラリーは、全問正解者に渡しているミュージアムカードを目当てに多くの子どもたちが参加している。近隣にお住まいのお子さんが中心になるが、平日の放課後に友達同士で来館する例もあり、リピーター獲得にもつながっている。

《川口委員》

外国人の来館者はいるか。

《事務局》

郷土資料館の来館者に外国人はほとんどいない。

飛ノ台史跡公園博物館にも縄文時代に興味を持つ外国人の来館がたまにあるが、多くはない状況である。

(2) 令和8年度の博物館運営方針に関し、郷土資料館長から資料2に沿って説明したのち、質疑応答を行った。質疑要旨は次のとおり。

《木原委員》

運営方針は両館共通のものということでよい。

《事務局》

そのとおりである。

《正法地委員》

運営方針について、昨年度から変わった点、追加した事項等はあるか。

《事務局》

郷土資料館で実施する工事及び、市制100年に向けた市史編さん事業について、運営の要点の4と5に追加している。あわせて、事業の実施細目に関しても7と8を加えている。その他の部分は、例年と同様である。

《高見澤委員》

運営方針に市史編さん事業に関することを加えたとのことだが、事業を進めるうえで、会計年度任用職員の採用など、どのように体制を整えていくのか。

《事務局》

昨年度、市史編さん事業のために会計年度任用職員を2人工・3名採用し、基礎資料の収集・調査などを始めたところである。市制90周年となる来年度は、編さん委員会を立ち上げる予定であり、市制100周年に向けて事業を進めるよう体制作りを含めた話を政策部門とも行っている。

《木原委員》

市史編さん室のようなものを設けるのか。事業の担当は、郷土資料館なのか。

《事務局》

現在の事業所管は郷土資料館で、所蔵資料の調査・研究など、市史編さんに向けた準備を行っている。正式な市史編さん委員会等の立上げなど、本格的な事業着手は来年度以降を予定している。

《木原委員》

これまでの市史編さん事業において収集した資料も残っているはずである。ぜひ、過去の収集資料も活用して、事業を進めてもらいたい。

(3) 令和8年度の事業計画に関し郷土資料館長・飛ノ台史跡公園博物館長から資料3に沿って説明したのち、質疑応答を行った。質疑要旨は次のとおり。

《高見澤委員》

飛ノ台史跡公園博物館の縄文コンテンプラリー展はこれまで夏の期間に実施していたが、開催時期を冬に変更した理由は。また、令和9年度以降も冬に行うことを考えているのか。

《事務局》

令和8年7月から郷土資料館が工事休館となるため、今年度は夏休みの期間に、郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の合同企画展を実施する予定であり、夏の開催は難しい状況である。また、これまで1月から3月は大きなイベントも実施しておらず、利用者も減少する時期となるので、しばらくはコンテンプラリー展を冬に開催し、集客につなげたいと考えている。時期の変更については、実行委員会内でも協議のうえ決めている。

《川口委員》

飛ノ台史跡公園博物館は、国際博物館の日関連イベントとして無料観覧の日を設けているが、郷土資料館はどうか。

《事務局》

郷土資料館は入館無料の施設なので特段無料観覧日の設定はないが、5月1日から実施中の玉川旅館に関する企画展に「国際博物館の日記念」の冠を掲げている。

《正法地委員》

YouTube動画の配信について、郷土資料館の事業計画のみ記載がある理由は。飛ノ台史跡公園博物館では取り組む予定はないのか。また、内容の見直しや配信数の目標などは立てているのか。

《事務局》

同じ動画だと視聴数の伸びは難しいので、郷土資料館休館中の取組としてY o u T u b e 動画の企画内容も検討しながら、新たな配信動画を制作していきたいと考えている。なお、目標数等の設定はしていない。

飛ノ台史跡公園博物館では、現在のところY o u T u b e より、デジタルミュージアムやXを活用して情報発信に取り組んでいきたい。

《正法地委員》

Y o u T u b e 動画配信は面白い、良い取組みだと考える。情報発信は大切になるので、しっかり取り組んでほしい。

《保坂委員》

自分が所属する団体においても、事業参加者数の減少は課題となっており、参加者が少ない事業は取捨選択しながら、中止を含め見直している状況である。郷土資料館の令和7年度施設利用者は、令和6年度に比べ減少しており、中には参加者が大幅に減少している事業もある。令和8年度計画で事業の見直し等を行っているのか。

《事務局》

参加人数は事業の成果を図る重要な視点・指標ではあるが、公民館と連携した事業では、地域性や当日の天候などの要因もある。また、公立博物館として公共事業という観点から事業意義も考える必要があるので、参加人数だけで実施可否を決められない面もある。

ワークショップや講演会は、内容によっても参加者の多寡が生じる。身近なテーマは訴求力が高い傾向にあるので、講師と調整しながら企画内容を検討していきたい。

《大木委員》

運営方針に市制90周年に関する記載があったが、令和9年度の市制90周年に向け、現段階で何か具体的な計画はあるのか。

《事務局》

市制90周年事業については、今年度の秋ごろまでに実施内容の企画・検討を行い、必要な経費を予算要求し、来年度事業として実施するものであり、現時点で具体的な計画があるわけではない。市史編さん事業もあるので、市制100周年に向けた中での90年といった視点を持って企画検討していきたいと考えており、職員間でも共通意識を持つようにしている。今年度、休館期間もあるので、改めて博物館の基礎的な部分である調査・研究活動に取り組み、その成果を来年度事業としてアウトプットできればよいと考えている。

- (4) 千葉市郷土博物館の視察結果に関し、郷土資料館長から資料4に沿って説明した。また、博物館登録の申請を行うことを報告したのち、委員から次のとおり今後の視察に関する意見が出された。

《正法地委員》

博物館協議会として視察を行うのであれば、運営など内面的な部分や外部から見えない事項、バックヤード部分も含め情報収集できるような内容がよいと考える。

《木原委員》

各施設も設置者や規模により全く状況が異なる。博物館協議会として、視察の目的を明確にして場所を選定し、視察先とも調整のうえ視察が実施できれば有益である。

《高見澤委員》

過去の視察先やテーマなどこれまでの実績を踏まえながら、視察内容の検討が必要になると思われる。これまでの視察実績を提示していただければありがたい。

《川口委員》

市制100周年の話が出ていたが、今後の船橋市の博物館や文化施設をどのようにしていくか。都市間競争が行われている中で他市と格差が生じないようにするためにも、大きな視点からの検討も重要ではないか。

《木原委員》

船橋市郷土資料館は、県内市町村の博物館として比較的早い時期に設置されていることも踏まえながら、地元にあるものを大切にしていく必要がある。博物館の根幹となる調査・研究活動に取り組むとのことで、大変期待したいと思うし、そのために必要なことに取組んでほしい。

9 資料・特記事項

- (1) 令和7年度事業報告
- (2) 令和8年度博物館運営方針
- (3) 令和8年度事業計画
- (4) 千葉市立郷土博物館視察（令和7年度第3回協議会）報告

10 問い合わせ先

船橋市教育委員会生涯学習部郷土資料館 047-465-9680